

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成28年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音・文強勢問題 正答率64.3% 【2】語彙問題 正答率35.5%）

ア 短い英文中の語の発音で、[z], [ð], [θ]などの紛らわしい音の区別ができない。また、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報（対比的な表現等）を意識できない。

イ 【2】語彙問題は、全大問の中で最も正答率が低く、文脈や対話の内容に応じて、適切な語彙（nurse, abroad, spend, against など）を用いることができない。正答である語のつづりの誤りではなく、別の語を解答する誤答や無答が多いという傾向が見られた。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率56.0% 【4】文法・表現問題 正答率59.8%）

ア 文の前後関係に応じて接続詞を適切に用いることができない。

イ 分詞の後置修飾を用いて適切に表現することができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率65.7%）

基本的な会話表現は定着しているが、状況や人物の心情を踏まえて表現することができない。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率66.3%）

【6】整序・作文問題は、全大問の中で最も正答率が高く、対話の内容に応じて、与えられた語を用いて表現することは、比較的よくできている。特に、make + 人 + 形容詞や、現在完了（経験）の表現はよく定着しているが、want + 人 + to 不定詞を用いた表現に誤りが多い。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率63.3%）

物語中の情報を断片的に捉えてしまい、状況や人物の行動などを整理しながら、話の展開や全体像を正確に理解することができない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率60.4%）

聞き取った内容から必要な情報を整理して正確に理解することができない。